

小学校赴任予定教員の 水泳授業に対する意識調査

浜上洋平(大阪体育大学)



大阪体育大学

OSAKA UNIVERSITY OF HEALTH AND SPORT SCIENCES



発表の流れ

1. 研究の背景
2. 研究の目的
3. 研究方法（インタビューの方法・対象）
4. インタビューの結果
5. まとめ（問題提起）
6. 今後の課題

研究の背景

➤ 民間スイミングスクール等への水泳授業の
“丸投げ”による水泳授業継続を“是”としますか？

〔是とする場合にリスクとして考えられること〕

- 体育授業としての意義が薄れる
- 体育授業との乖離を生む

⇒水泳授業が体育授業から切り離されたとき
に真の“水泳授業不要論”が生まれる可能性

研究の背景

〔水泳授業の丸投げを促す要因〕

- 教員の水泳授業に対する自信の低さ？
 - 「保健体育科教員の水泳授業に対する意識調査」(浜上ら, 2025)によると...
- 中高保健体育科教員であっても、水泳非専門の方は水泳授業に対する自信が低い
 - ⇒小学校教員はなおさら水泳授業に対する自信が低いのでは？

中高保体教員対象の調査(浜上ら, 2025)

質問項目	水泳専門群 (n=44)	非専門群 (n=153)	p値
1 <u>水泳授業において自分の指導力に自信がある</u>	3.09 ± 0.80	1.95 ± 0.78	< 0.001
2 <u>水泳の授業はできればやりたくない</u>	1.48 ± 0.90	2.31 ± 1.03	< 0.001
3 生徒の大半は水泳授業が好きであると思う	2.39 ± 0.78	2.31 ± 0.85	0.603
4 生徒の大半は水泳授業を楽しみにしていると思う	2.43 ± 0.79	2.40 ± 0.86	0.840
5 生徒の大半は水泳授業を怖がっていると思う	1.98 ± 0.82	2.14 ± 0.75	0.209
6 生徒の技能向上を評価することは必要であると思う	3.18 ± 0.87	3.15 ± 0.73	0.804
7 水泳授業の際、安全面に特に気をつけている	3.84 ± 0.43	3.75 ± 0.72	0.409
8 <u>水泳授業は必ず生徒と一緒にプールに入って指導する方が良い</u>	2.59 ± 1.02	2.25 ± 0.92	0.033
9 <u>生徒と一緒に入る指導よりプールサイドでの監視の方が重要である</u>	2.57 ± 0.93	2.94 ± 0.88	0.015
10 自分一人で教える場合の生徒数は少ない方が良い	3.55 ± 0.59	3.69 ± 0.65	0.192
11 <u>自分一人で教える場合の生徒数は多くても可能である</u>	2.36 ± 1.01	1.61 ± 0.80	< 0.001
12 生徒の能力別に指導した方がよい	3.32 ± 0.71	3.32 ± 0.74	1.000
13 体育の他の領域の授業時数と比べ、水泳の授業時数は少ないと思う	2.73 ± 1.09	2.64 ± 0.94	0.613
14 学習指導要領の内容に沿った授業を行っている	2.80 ± 0.95	2.86 ± 0.75	0.653
15 <u>限られた授業時数の中で学習指導要領に記載されているすべての内容を教えることは困難である</u>	3.41 ± 0.62	3.40 ± 0.72	0.957
16 生徒は自分の能力を理解できていると思う	2.45 ± 0.79	2.59 ± 0.84	0.336
17 <u>水泳においては課題解決のための練習の仕方を工夫することは必要であると思う</u>	3.70 ± 0.46	3.44 ± 0.75	0.028
18 着衣泳を必ず取り入れている	1.68 ± 0.96	1.75 ± 1.01	0.703

※下線は有意差があった項目を示す。

※赤字は水泳授業の実態を把握するうえで注目すべきと判断した項目を示す。

研究の目的

- 小学校赴任予定教員の水泳授業に対する意識および自信を明らかにすること

データ収集と対象者

- ある地域の小学校赴任予定の教員研修に参加した483名を対象に質問紙調査（Google Forms）を依頼し、有効回答と判断された316名が対象

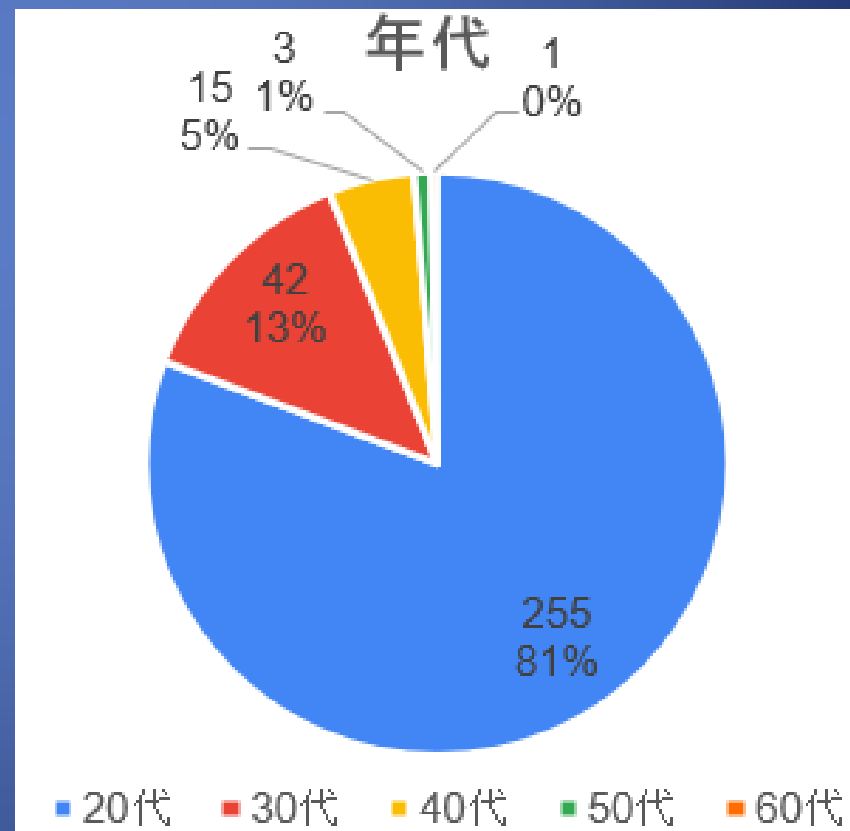
〔調査内容〕

- ① 回答者の属性
- ② 水泳の専門性の程度
- ③ 教員養成段階における水泳授業の有無
- ④ 水泳授業に対する意識および自信
- ⑤ 水泳授業の外部委託に対する賛否とその理由

結果と考察

①対象者の属性

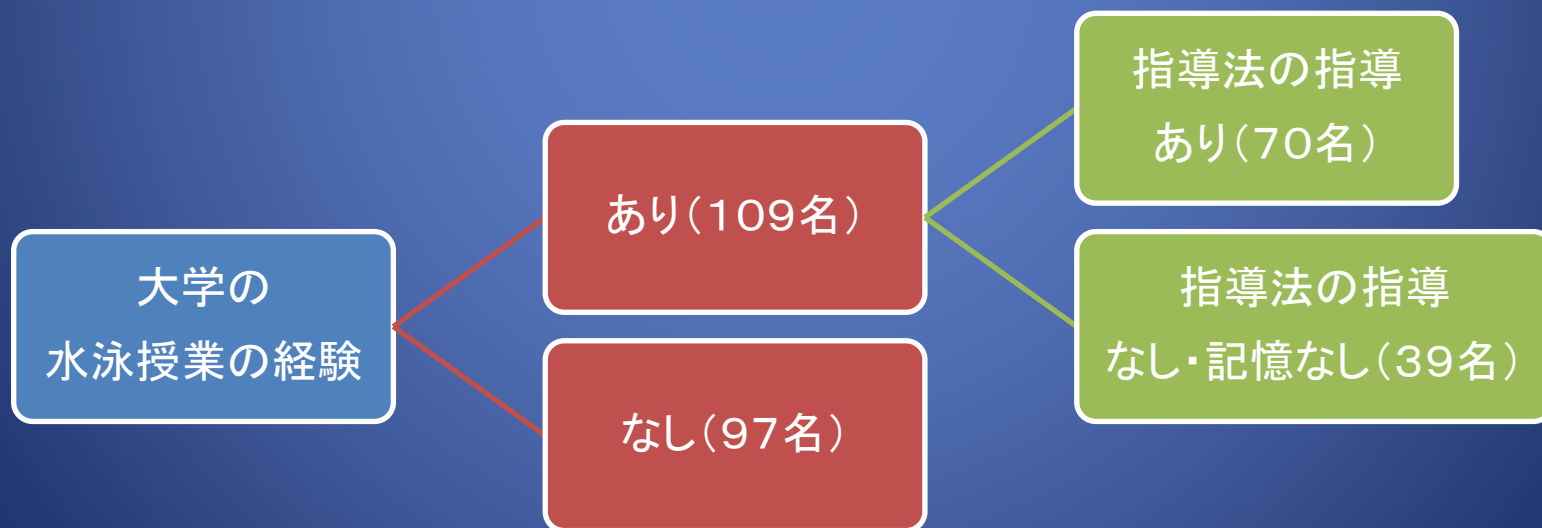
- 男性139名、女性177名
- 年代は20代が中心



結果と考察

②水泳の専門性の程度

- 水泳専門9名、他スポーツ専門84名、専門スポーツなし223名
- スイミングスクール経験あり206名、なし110名



結果と考察

水泳授業に対する意識の相違

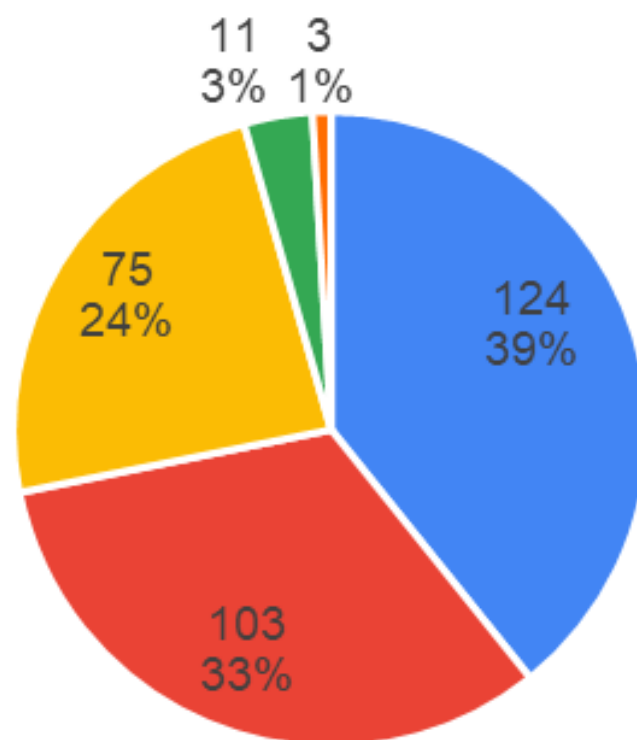
小学校水泳非専門と保体水泳非専門

質問項目	小学校水泳非専門群 (n=44)	保体水泳非専門群 (n=153)	p値
1 水泳授業において自分の指導力に自信がある	1.83±0.63	1.95±0.62	0.145
2 水泳の授業はできればやりたくない	2.19±0.74	2.31±1.07	0.175
3 <u>児童・生徒の大半は水泳授業が好きであると思う</u>	2.62±0.58	2.31±0.73	<0.001
4 <u>児童・生徒の大半は水泳授業を楽しみにしていると思う</u>	2.81±0.53	2.39±0.73	<0.001
5 <u>児童・生徒の大半は水泳授業を怖がっていると思う</u>	2.33±0.43	2.14±0.57	0.005
6 児童・生徒の技能向上を評価することは必要であると思う	3.08±0.52	3.15±0.54	0.362
7 水泳授業の際、安全面に特に気をつけている	3.84±0.37	3.75±0.52	0.153
8 <u>水泳授業は必ず児童・生徒と一緒にプールに入って指導する方が良い</u>	2.88±0.62	2.24±0.83	<0.001
9 <u>児童・生徒と一緒に入る指導よりプールサイドでの監視の方が重要である</u>	2.58±0.61	2.24±0.83	<0.001
10 自分一人で教える場合の児童・生徒数は少ない方が良い	3.62±0.51	3.69±0.42	0.299
11 自分一人で教える場合の児童・生徒数は多くても可能である	1.59±0.62	1.61±0.65	0.868
12 児童・生徒の能力別に指導した方がよい	3.39±0.49	3.31±0.55	0.269
13 <u>体育の他の領域の授業時数と比べ、水泳の授業時数は少ないと思う</u>	2.42±0.66	2.65±0.89	0.007
14 <u>学習指導要領の内容に沿った授業を行っている</u>	3.05±0.57	2.86±0.57	0.012
15 <u>限られた授業時数の中で学習指導要領に記載されているすべての内容を教えることは困難である</u>	3.08±0.57	3.41±0.52	<0.001
16 <u>児童・生徒は自分の能力を理解できていると思う</u>	2.25±0.53	2.59±0.70	<0.001
17 水泳においては課題解決のための練習の仕方を工夫することは必要であると思う	3.39±0.55	3.44±0.56	0.477
18 <u>着衣泳を必ず取り入れている</u>	3.34±0.63	1.73±0.99	<0.001

※下線は有意差があった項目を示す。

結果と考察

民間や公営のプールを借りて
授業を実施することに賛成？反対？



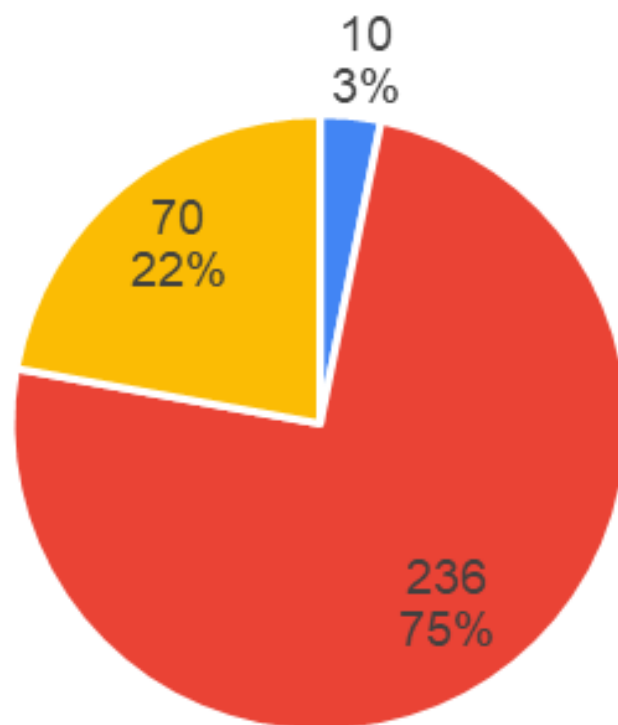
■ 賛成 ■ やや賛成 ■ やや反対 ■ 反対 ■ わからない、どちらでもない

民間や公営のプールを借りることに賛成する理由

別紙参照(表1)

結果と考察

水泳授業の指導の担当について
どう思う？



■ 教員が指導 ■ 両者で協力 ■ インストラクターに全面委託

指導をインストラクターに全面的に委ねたい理由

別紙参照(表2)

まとめ

〔小学校教員と保体教員の比較から〕

- 小学校赴任予定教員、保体教員関係なく、水泳非専門の教員は水泳授業に対する自信が低い
- 小学生は中高生より水泳授業を楽しみに思っているとともに怖さも感じている可能性
など

まとめ

〔外部のプールを借りることについて〕

- 7割以上の小学校校赴任予定の教員が民間や公営のプールを借りることに賛成している。



〔外部のプールを借りることに賛成する理由(上位から)〕

1. 「プール施設の確保や学習環境が充実している」
2. 「準備・管理が簡便である」
3. 「安全面・衛生面を確保できる」
4. 「天候等による影響を受けにくい」
5. 「教員の負担が減る」

まとめ

〔インストラクターに指導を委ねることについて〕

- 約75%の小学校赴任予定教員は両者協力体制で授業を行いたいと思っている。
- 約22%の小学校赴任予定教員はインストラクターに全面的に指導を委ねたいと思っている。



〔インストラクターに指導を委ねたい理由（上位から）〕

1. 「指導の専門性」
2. 「安全面の確保」
3. 「教員の負担軽減」

本調査の限界

- 小学校赴任予定の教員を対象にしたため、実際の学校現場がの状況が回答に反映されていない可能性が高い

⇒実際に小学校に赴任されている教員を対象に同様の調査を行う